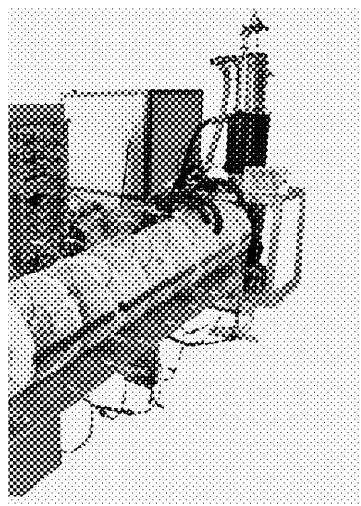


# 粉末ワククチン製造ライン

## モリモト医薬、10億円調達

モリモト医薬(大阪市西淀川区、盛本修司社長)は、新型コロナウイルス感染症用の粉末ワククチン製造ライン構築に向け、第1段階の目標としていた総額10億円の資金調達を達成した。2022年に計画している新型コロナウイルス感染症向けの凍結乾燥製剤による粉末ワククチン製造の実現へ準備が整った。

モリモト医薬子会社「区」が5億円、化粧品で製剤技術開発関連会などを手がける協和社のエムアイアイ(大)(東京都新宿区)が1億円、スエデンを出資した。6月に医薬品卸の東



整備を進める凍結乾燥製剤装置のイメージ(モリモト医薬提供)

邦ホールディングス(HD)が2億5000万円出資したのに続く資金確保となり、他社からの出資も合わせ計10億円を調達した。本社工場のワククチン製造ライン稼働に向け、設備や装置の導入・設置費用などに充てる。

開発中の粉末ワククチンは常温での保管や輸送が可能で、管理の負担を大幅に軽減する。協和の堀内泰司社長はこの点を評価し「社会的意義が大きい」として投資を決めた。スナダ建設はベンチャー企業の新技術に積極投資しており、今回の投資

もその一環。砂田直成社長は「輸送や海外販路開拓などの支援もしていきたい」考え。22年秋に治験薬、22年度内に製品の製造開始を計画。低コストで効率的な連続生産体制を整える。設備開発には島津サイエンス西日本(大阪市北区)や大阪サニタリー(大阪府摂津市)、片山化学工業(大阪市中央区)、SDバイオシステム(東京都新宿区)、トーステ(大阪市西区)、マイクロニクス(京都府久御山町)など約30社の協力を得る。